

副詞と接統詞から見た『権記』の位置 ——異なり語数の観点を中心として——

清水 教子

はじめに

『権記』は、周知のように平安中期の公卿藤原行成（972年～1027年）の日記（991年～1011年の記事）である。記事は原則として漢字表記であり、文体は変体漢文である。この『権記』（注1）（以下、本文と称することにする）と比較する文献として、平安時代の和文の日記（『土佐日記』（注2）・『蛸蛸日記』（注3）・『和泉式部日記』（注4）・『紫式部日記』（注5）・『更級日記』（注6））、漢字片仮名交じり文の『今昔物語集』（注7）、変体漢文の往来物の訓点資料（『高山寺本古往来』（注8）・『雲州往来』（注9））、漢籍（正式漢文）の訓点資料『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』（注10）の9文献を取り上げる。副詞と接統詞とに限定したのは、次の理由による。副詞は原則として用言を修飾するので、文献の内容によって用いる情態副詞は異なるが、陳述副詞や程度副詞は共通度が高いと考えられるからである。一方、接統詞は、主として文と文の続き具合を限定するので、接統詞を用いることによって（接統詞を用いない場合より）、続き具合が鮮明になるからである。つまり、文章の論理構造をはっきり示すことで、文体にかかわってくるからである。

本稿の目的は、本文と他の9文献の副詞・接統詞のそれぞれの異なり語数との比較、本文と一致する他の9文献の副詞・接統詞のそれぞれの異なり語数（一致率）との比較を通して、本文の位置を明らかにすることである。

以下、上で述べた四つのグループごとに本文と他の9文献との比較をしていく。各文献ごとに副詞・接統詞の異なり語及び用例数の全てを示すことは、紙幅の都合で不可能なので割愛する。

なお、副詞としては、原則として名詞の副詞的用法は除いている。又、辞書や索引の類で副詞であったり形容動詞であったりしているもの、形容動詞の連用形「～に」の形しかないものなどは副詞として扱っている場合がある。又、副詞の下位分類としての陳述副詞・程度副詞・情態副詞の三つのうち、いずれに属するとすべきかで迷いもあったことを付け加えておきたい。それに、「また（又・亦）」などのように、副詞か接統詞かの認定が困難な場合もあり、「さらに（更に）」などのように、陳述副詞（否定形と呼応する場合）・情態副詞の両者に用法の分かれる場合もある。

本文献を除いて、残り9文献は上の注2～注10に示した索引を利用した。同じ言葉でも索引によって品詞の異なる場合（例えば、副詞か形容動詞か）は、私に調整した。

本文献の副詞・接統詞のそれぞれの語彙については、過去の調査（注11）に加えて今回再調査をし、情態副詞に関しては新たに調査をした。

本文献の語の読み方については、当時の書記言語を載せている『色葉字類抄』（注12）の読みを参考にし、本稿では和語は平仮名で、漢語は片仮名でそれぞれ示している。

4グループごとに副詞・接統詞のそれぞれの一致率を比較するに先立つて、今回扱う10文献の副詞・接統詞の異なり語数の全体について次に見る。

一 10文献に見られる副詞・接統詞の異なり語数（→表1）

10文献に見られる副詞の異なり語数は、巻末の表1から、分量も大部の（例えば、小学館の日本古典文学全集で全4冊）『今昔物語集』が最も多く、191語（24.4%）である。次いで、『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の95語（12.1%）、本文献の88語（11.3%）、『雲州往来』の83語（10.6%）、『和泉式部日記』の67語（8.6%）、『更級日記』の66語（8.4%）、『蜻蛉日記』の65語（8.3%）、『紫式部日記』の49語（6.3%）、『高山寺本古往来』の40語（5.1%）、『土佐日記』の38語（4.9%）の順に少なくなっている。異なり語数の点で本文献と最も近いのは、同じ変体漢文の『雲州往来』であることが分かる。和文の3文献、『和泉式部日記』・『更級日記』・『蜻蛉日記』はいずれもほぼ同じ数値である。意外に思うのは、漢文訓読語の交じっている『土佐日記』が他の女性の書いた4日記よりも異なり語数の点で数値が低く、10文献中最下位に位置していることである。

一方、接統詞の異なり語数は、副詞の場合と同じく『今昔物語集』が最も多くて33語（23.9%）である。次いで、『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の27語（19.6%）、本文献の21語（15.2%）、『高山寺本古往来』・『雲州往来』の14語（10.1%）、『土佐日記』の9語（6.5%）、『紫式部日記』の7語（5.1%）、『蜻蛉日記』・『和泉式部日記』の6語（4.3%）であり、最下位は『更級日記』の1語（0.7%）である。つまり、本文献と数値が最も近いものは見当たらない。強いて言えば、『高山寺本古往来』・『雲州往来』・『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』である。女性日記は、『蜻蛉日記』・『和泉式部日記』・『紫式部日記』共に4～5%であり、本文献の異なり語数の1/3くらいである。和文の日記の中では、『土佐日記』が前記3日記より1～2%数値が高い。即ち、前文と後文との論理構造を明確に示しているのは、和文の日記5文献ではなくて、『今昔物語集』・変体漢文の3文献・正式漢文の1文献である。同じ変体漢文の中では、本文献が最も多い。

二 和文の日記との比較 (→表2～表6)

和文の五つの日記のうち、『土佐日記』だけは紀 貫之という男性が作者である。周知のように、「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。」と冒頭に女の立場で書くのだと宣言している。従って、五つの日記は全て女性、或いは、女性の立場になって書いたものである。本文献と前記5文献とで、副詞・接続詞のそれぞれの異なり語の一致するものを次に示すことにする。副詞は、陳述副詞・程度副詞・情態副詞の順に記す。

1. 『土佐日記』との比較

本文献と『土佐日記』とで一致する陳述副詞は「かならず・かならずしも・さらに・ただ・なほ・もし・もはら」7語、程度副詞は「はなはだ」1語、情態副詞は「おのづから・かつ・ひそかに・もとより」4語で、計12語である。

接続詞は、添加の「また」、転換の「そもそも」、逆接の「しかれども」3語である。

2. 『蜻蛉日記』との比較

本文献と『蜻蛉日記』とで一致する陳述副詞は「さらに・ただ・なほ」3語、程度副詞は「きはめて」1語、情態副詞は「いよいよ・さらに・はじめて・まづ・やうやく」5語、計9語である。

接続詞は零である。

3. 『和泉式部日記』との比較

本文献と『和泉式部日記』とで一致する陳述副詞は「かならず・さだめて・なほ・もし」4語、程度副詞は「いささか・ことに・また」3語、情態副詞は「すなはち・たまたま・はかに・はじめて・まづ」5語、計12語である。

接続詞は零である。

4. 『紫式部日記』との比較

本文献と『紫式部日記』とで一致する陳述副詞は「いまだ・さだめて・ただ・なほ」4語、程度副詞は「また」1語、情態副詞は「いよいよ・おのづから・まづ・みづから」4語、計9語である。

接続詞は転換の「それ」1語である。

5. 『更級日記』との比較

本文献と『更級日記』とで一致する陳述副詞は「いまだ・かならず・さらに・ただ」4語、程度副詞は「いささか・すこし・また」3語、情態副詞は「いよいよ・ひとへに」2語、計9語である。

接続詞は添加の「また」1語である。

三 『今昔物語集』(6) との比較 (→表2～表6)

本文献と一致する『今昔物語集』の陳述副詞は「あへて・イチヂヤウ・いまだ・かつて・かならず・かならずしも・さだめて・さらに・すでに・すべからく・ただ・なほ・ほとほと・まさに・もし・ゆめゆめ」16語、程度副詞は「いささかに・きはめて・ことごとく・しばらく・すこし・なかむづくに・はなはだ・もとも・やや・よく」10語、情態副詞は「あからさまに・いよいよ・おのづから・おのづからに・かねて・すなはち・たちまちに・たまたま・つぎつぎ・つひに・つらつら・にはかに・ひそかに・ひとへに・まことに・まづ・まのあたり・みづから・もとより・やうやく」20語、計46語である。

接続詞は、添加の「しかのみならず・また」2語、選択の「または・もしは」2語、転換の「ここに・そもそも」2語、順接の「しかれば・すなはち・ゆゑに」3語、逆接の「しかるに・しかるを・しかれども」3語、並立の「ならびに」1語、補足の「ただし」1語、計14語である。

四 変体漢文の訓点資料との比較 (→表2～表6)

7. 『高山寺本古往来』との比較

本文献と一致する『高山寺本古往来』の陳述副詞は、「あたかも・あへて・いかん・いまだ・かならず・さだめて・さらに・すでに・すべからく・ただ・たとひ・まさに・もし・もはら」14語、程度副詞は「いささかに・ことに・しかしながら・なかんづくに・はなはだ・また・もとも」7語、情態副詞は「あらかじめ・いよいよ・おのづから・さらに・たまたま・まことに・まづ・もとより・やうやく」9語、計30語である。

接続詞は、添加の「しかのみならず」1語、転換の「そもそも」1語、順接の「かかるあひだ・しかれば・すなはち・よつて」4語、逆接の「しかるに・しかるを・しかれども」3語、並立の「ならびに」1語、補足の「ただし」1語、計11語である。

8. 『雲州往来』との比較

本文献と一致する『雲州往来』の陳述副詞は、「あへて・いかん・いかにいはむや・いはむや・いまだ・いまに・かつて・かならず・かならずしも・さだめて・さらに・すでに・すべからく・ただ・たとひ・なほ・ほとほと・まさに・もし・ゆめゆめ・よろしく」21語、程度副詞は「いささか・きはめて・ことに・しかしながら・しばらく・すこし・すこぶる・なかんづくに・はなはだ・また・もとも・やや・よく」13語、情態副詞は「あらかじめ・いよいよ・かねて・かねてより・さらに・たちまちに・たまたま・つらつら・てづから・にはかに・はじめて・ひそかに・ひとへに・まことに・まづ・みづから・ミツミツに・もとより・

やうやく」19語、計53語である。

接続詞は、添加の「しかのみならず・また」2語、転換の「ここに・そもそも・それ」3語、順接の「すなはち・よいて」2語、逆接の「しかるに・しかるを・しかれども」3語、並立の「ならびに」1語、補足の「ただし」1語、計12語である。

五 漢籍の訓点資料『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』(9)との比較

(→表2～表6)

本文献と一致する『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の陳述副詞は、「あへて・いはむや・いまだ・かつて・かならず・かならずしも・すでに・ただ・たとひ・なほ・まさに・もし・もはら・よろしく」14語、程度副詞は「いささかに・きはめて・ことごとく・しばらく・すこし・すこぶる・はなはだ・また・もとも・やや・よく」11語、情態副詞は「あらかじめ・いよいよ・おのづから・かさねて・さらに・すなはち・たちまちに・たまたま・つひに・ときに・にはかに・はじめて・ひそかに・ひとへに・まことに・まづ・もはら・もとより・やうやく」19語、計44語である。

接続詞は、添加の「しかのみならず・また」2語、選択の「または」1語、転換の「ここに・そもそも・それ」3語、順接の「すなはち・ゆゑに・よいて」3語、逆接の「しかるに・しかるを・しかれども」3語、並立の「ならびに」1語、補足の「ただし」1語、計14語である。

六 『権記』と一致する9文献の副詞・接続詞(まとめ)

本文献と一致する9文献の異なり語数の観点(→表2～表6)からまとめると、副詞は『雲州往来』の53語(60.20%)が最も多く、『今昔物語集』の46語(52.3%)、『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の44語(50.0%)、『高山寺古往来』の30語(34.1%)、『土佐日記』、『和泉式部日記』の12語(13.6%)、『蜻蛉日記』・『紫式部日記』・『更級日記』の9語(10.2%)の順に少なくなっている。即ち、副詞は、日記と往来物というジャンルの違いはあっても、本文献と同じ変体漢文の『雲州往来』との一致率が最も高く、『土佐日記』ほか和文の日記との一致率は『雲州往来』の1/4以下である。

又、副詞の下位分類で見ると、陳述副詞21語(70.0%)・程度副詞13語(86.7%)で『雲州往来』との一致率が最も高く、和文の日記類との一致率はその1/4以下である。情態副詞は、『今昔物語集』が20語(46.5%)で最も一致率が高い。

一方、接続詞は、『今昔物語集』と『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の2文献がいく

れも、本文献と一致する異なり語数14語（66.7%）と最も一致率が高い。次いで、『雲州往来』の12語（57.1%）、『高山寺本古往来』の11語（52.4%）、『土佐日記』の3語（14.3%）、『紫式部日記』・『更級日記』の1語（4.8%）、『蜻蛉日記』・『和泉式部日記』等（0%）の順に低くなる。やはり、変体漢文の『雲州往来』・『高山寺本古往来』との一致率は、和文の日記の中では高い『土佐日記』の4倍である。

接続詞の意味上の分類の観点からは、添加は『今昔物語集』・『雲州往来』・『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の2語（100%）、選択は『今昔物語集』の2語（66.7%）、転換は『雲州往来』の3語（100%）、順接は『今昔物語集』の4語（57.1%）、逆接は『今昔物語集』・『高山寺本古往来』・『雲州往来』・『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の3語（100%）、並立・補説は『今昔物語集』・『高山寺本古往来』・『雲州往来』・『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の1語（50.0%）がそれぞれ最も本文献との一致率が高い。

いずれにしても、接続詞の場合は、本文献との一致率が和文の日記5文献で0%～5.40%と非常に低いのにに対して、『今昔物語集』・『高山寺本古往来』・『雲州往来』・『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』では52.4%～66.7%と非常に高い。

以上、本文献との一致率から見ると、副詞では『雲州往来』、接続詞では『今昔物語集』が最も高い。即ち、副詞・接続詞を構成している語彙は、和文の5日記に比べて、『今昔物語集』、変体漢文の訓点資料『高山寺本古往来』・『雲州往来』、漢籍の訓点資料『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』との一致率が格段に高いのである。副詞・接続詞に関して、和文の日記5文献と変体漢文の2文献・正式漢文の1文献・『今昔物語集』とでは、使用語彙にグループ差の見られることが明らかである。

七 おわりに

以上をまとめると、副詞・接続詞のそれぞれの異なり語数の観点から見た本文献の位置は次のように言える。

1. 副詞の異なり語数の点では、同じ変体漢文の『雲州往来』に最も近い。
2. 接続詞の異なり語数の点では、同じ変体漢文の訓点資料『高山寺本古往来』・『雲州往来』や正式漢文の訓点資料『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』に比較的近い。
3. 本文献と一致する副詞の異なり語数は、『雲州往来』が最も多い（一致率60.2%）。下位分類では、陳述副詞（一致率70.0%）・程度副詞（一致率86.7%）は『雲州往来』との、情態副詞（一致率46.5%）は『今昔物語集』との一致率がそれぞれ最も高い。
4. 本文献と一致する接続詞の異なり語数は、『今昔物語集』（一致率66.7%）が最も多い。

接続詞の意味上の分類の観点からは、次のものが100%の一致率を示している。『雲州往来』

との一致率(60.0%)は、9文献中3番目に高い。

- (1) 添加は、『今昔物語集』・『雲州往來』・『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の3文献。
- (2) 選択は、『今昔物語集』・『雲州往來』の2文献。
- (3) 逆接は、『今昔物語集』・『高山寺本古往來』・『雲州往來』・『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』の4文献。

結局、変体漢文の日記である『権記』は、副詞・接統詞のそれぞれの異なり語数、副詞・接統詞のそれぞれ本文献と一致する語の異なり語数の両方の面から見て、同じ変体漢文の往來物の訓点資料である『雲州往來』に最も近いと位置付けることができる。

注

- (1) 増補「史料大成」刊行会編 史料大成『権記一』・『権記二』 臨川書店 1982年
- (2) 日本大学文理学部編 『土佐日記総索引』 桜楓社 1967年
- (3) 佐伯梅友・伊牟田経久編 『かげろふ日記総索引』 風間書房 1963年
- (4) 東 節夫・塚原鉄雄・前田欣吾編 『和泉式部日記総索引』 武蔵野書院 1969年
- (5) 今西祐一郎・上田英代・村上征勝編 『紫式部日記 語彙用例 総索引』 勉誠社 1996年
- (6) 東 節夫・塚原鉄雄・前田欣吾共編 『更級日記総索引』 武蔵野書院 1979年
- (7) 馬淵和夫監修・有賀嘉寿子編 『今昔物語集自立語索引』 笠間書院 1982年
- (8) 高山寺典籍文書総合調査団編 『高山寺本古往來 表白集』 東京大学出版会編 1972年
- (9) 三保忠夫・三保サト子編著 『雲州往來 享禄本 研究と総索引 索引編』 和泉書院 1997年
- (10) 築島 裕著 『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点の国語学的研究 索引編』 東京大学出版会 1996年
- (11) ○清水教子 御堂関白記の程度副詞「亟(メテ)」について 『国文学攷』第67号 1975年
○清水教子 『権記』に見られる陳述副詞 『中国短期大学紀要』第20号 1989年
○清水教子 『権記』に見られる接統詞 『中国短期大学紀要』第21号 1990年
- (12) 中田祝夫・峰岸 明編 『色葉字類抄 研究並びに索引 本文索引編』 風間書房 1964年

〈表1〉 『権記』ほか10文献に見られる副詞・接続詞の異なり語数 一覧

副詞

	権記	土佐	蜻蛉	和泉	紫式部	更科	今昔物語	高山寺	雲州往来	三蔵
陳述副詞	30	12	16	27	12	19	43	18	28	31
程度副詞	15	8	9	10	8	9	30	10	16	2
情態副詞	43	18	40	30	29	38	118	12	39	43
合 計	88	38	65	67	49	66	191	40	83	95

接続詞

	権記	土佐	蜻蛉	和泉	紫式部	更級	今 昔	高山寺	雲州往来	三蔵
添 加	2	1	0	0	0	0	4	1	2	3
選 択	3	0	0	0	0	0	3	0	0	2
転 換	4	2	0	0	1	0	2	1	3	3
順 接	7	2	3	2	2	1	16	5	2	13
逆 接	2	4	3	4	4	0	6	5	5	4
並 立	2	0	0	0	0	0	1	1	1	1
補 足	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1
合 計	21	9	6	6	7	1	33	14	14	27

〈表2〉 『権記』と一致する9文献の副詞・接続詞の異なり語数 一覧

副詞

	権記	土佐	蜻蛉	和泉	紫式部	更科	今昔物語	高山寺	雲州往来	三蔵
陳述副詞	30	7	3	4	4	4	16	14	21	14
程度副詞	15	1	1	3	1	3	10	7	13	11
情態副詞	43	4	5	5	4	2	20	9	19	19
合 計	88	12	9	12	9	9	46	30	53	44

接続詞

	権記	土佐	蜻蛉	和泉	紫式部	更級	今 昔	高山寺	雲州往来	三蔵
添 加	2	1	0	0	0	1	2	1	2	2
選 択	3	0	0	0	0	0	2	0	0	1
転 換	4	1	0	0	1	0	2	1	3	3
順 接	7	0	0	0	0	0	4	4	2	3
逆 接	2	1	0	0	0	0	3	3	3	3
並 立	2	0	0	0	0	0	1	1	1	1
補 説	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1
合 計	21	3	0	0	1	1	15	11	12	14

〈表3〉 『権記』と一致する9文献の陳述副詞(十は、その数字以上を示す。)

	陳述副詞	土佐	蛸鈴	和泉	紫	更科	今昔物語	高山寺本	雲州往來	三蔵法師
1	あたかも	0	0	0	0	0	0	1	0	0
2	あへて	0	0	0	0	0	77+	4	2	43
3	いかん	0	0	0	0	0	0	14	21	0
4	いかにはむや	0	0	0	0	0	0	0	2	0
5	イチヂヤウ	0	0	0	0	0	1	0	0	0
6	いはむや	0	0	0	0	0	0	0	6	19
7	いまだ	0	0	0	1	2	141+	11	20	2
8	いまに	0	0	0	0	0	0	0	6	0
9	かつて	0	0	0	0	0	6+	0	1	15
10	かならず	2	0	2	0	6	292+	9	8	45
11	かならずしも	2	0	0	0	0	1	0	3	1
12	けだし	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	さだめて	0	0	0	0	0	130+	8	20	0
14	さらに	2	20	7	1	1	381+	16	4	0
15	すでに	0	0	0	0	0	0	17	59	253
16	すべからく	0	0	0	0	0	0	7	9	0
17	ただ	7	67	0	29	19	0	11	24	62
18	たとひ	0	0	0	0	0	0	5	9	8
19	なほ	19	85	21	10	0	0	0	19	33
20	ほとんど	0	0	0	0	0	0	0	5	0
21	まさに	0	0	0	0	0	0	5	9	157
22	もし	3	0	2	0	0	0	22	27	82
23	もはら	1	0	0	0	0	0	4	0	1
24	ゆめゆめ	0	0	0	0	0	0	0	10	0
25	よろしく	0	0	0	0	0	0	0	2	28
総用例数		25	172	32	41	28	1029+	134	266	749
異なり語数		7	3	4	4	4	16	14	21	14

〈表4〉 『権記』と一致する9文献の程度副詞

	程度副詞	土佐	蛸鈴	和泉	紫	更科	今昔物語	高山寺本	雲州往來	三蔵法師
1	いささか	0	0	1	0	3	0	0	17	0
2	いささかに	0	0	0	0	0	35+	1	0	3
3	きはめて	0	1	0	0	0	370+	0	1	25
4	ことごとく	0	0	0	0	0	52+	0	0	41
5	ことに	0	0	3	0	0	0	19	16	0
6	しかしながら	0	0	0	0	0	0	4	8	0
7	しばらく	0	0	0	0	0	181+	0	9	32
8	すこし	0	0	0	0	3	140+	0	2	17
9	すこぶる	0	0	0	0	0	0	0	9	5
10	なかむつくに	0	0	0	0	0	9	0	0	0
11	(なかむづくに)	0	0	0	0	0	0	2	1	0
12	はなはだ	1	0	0	0	0	71+	7	11	54
13	また	0	0	16	30	16	0	1	4	511
14	もとも	0	0	0	0	0	61+	26	48	24
15	やや	0	0	0	0	0	24	0	1	4
16	よく	0	0	0	0	0	221+	0	5	70
総用例数		1	3	19	33	20	1427+	66	141	816
異なり語数		1	1	3	1	3	10	7	13	11

〈表5〉 『権記』と一致する9文献の情態副詞

	情態副詞	土佐	蛸蛉	和泉	紫	更科	今昔物語	高山寺本	雲州往来	三蔵法師
1	あからさまに	0	0	0	0	0	18+	0	0	0
2	あらかじめ	0	0	0	0	0	0	1	3	8
3	いよいよ	0	2	0	3	1	35+	6	9	30
4	おのづから	1	0	0	8	0	154+	7	0	20
5	おのづからに	0	0	0	0	0	20	0	0	0
6	かさねて	0	0	0	0	0	0	0	0	34
7	かつ	1	0	0	0	0	0	0	0	0
8	かねて	0	0	0	0	0	59+	0	11	0
9	かねてより	0	0	0	0	0	0	0	1	0
10	さらに	0	8	0	0	0	0	2	3	86
11	すなはち	0	0	1	0	0	296+	0	0	262
12	たちまちに	0	0	0	0	0	410+	0	7	35
13	たまたま	0	0	1	0	0	25+	11	8	7
14	つぎつぎ	0	0	0	0	0	8+	0	0	0
15	つひに	0	0	0	0	0	314+	0	0	161
16	つらつら	0	0	0	0	0	2	0	1	0
17	てづから	0	0	0	0	0	0	0	1	0
18	ときに	0	0	0	0	0	0	0	0	90
19	にはかに	0	0	1	0	0	178+	0	1	9
20	はじめて	0	1	1	0	0	0	0	6	9
21	ひそかに	4	0	0	0	0	141+	0	4	43
22	ひたすら	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	ひとへに	0	0	0	0	2	157+	0	8	2
24	まことに	0	0	0	0	0	269+	4	5	2
25	まづ	0	28	5	6	0	155+	7	14	38
26	まのあたり	0	0	0	0	0	14+	0	0	0
27	みづから	0	0	0	1	0	206+	0	3	0
28	みつみつに	0	0	0	0	0	0	0	4	0
29	もはら	0	0	0	0	0	8	1	0	6
30	もとより	1	0	0	0	0	86+	0	1	12
31	やうやく	0	1	0	0	0	187+	1	1	39
	総用例数	6	30	8	15	2	2256	32	78	861
	異なり語数	4	5	5	4	2	20	9	19	19

〈表6〉 『権記』と一致する9文献の接続詞

分類	接続詞	土佐	蛸蛉	和泉	紫	更科	今昔物語	高山寺本	雲州往来	三蔵法師
A. 添加	1. しかのみならず	0	0	0	0	0	7	3	3	15
	2. また	23	0	0	0	1	762+	0	4	511
B. 選択	3. または	0	0	0	0	0	6	0	0	4
	4. もしは	0	0	0	0	0	14+	0	0	0
C. 転換	5. ここに	0	0	0	0	0	19+	0	1	102
	6. そもそも	1	0	0	0	0	412+	24	26	4
	7. それ	0	0	0	1	0	0	0	1	4
D. 順接	8. しかるあひだ	0	0	0	0	0	0	4	0	0
	9. しかれば	0	0	0	0	0	632+	1	0	0
	10. すなはち	0	0	0	0	0	296+	15	13	262
	11. ゆゑに	0	0	0	0	0	1	0	0	59
	12. よつて (よりて)	0	0	0	0	0	0	21	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	31	91
E. 逆接	13. しかるに	0	0	0	0	0	313+	13	6	5
	14. しかるを	0	0	0	0	0	11	9	20	2
	15. しかれども	1	0	0	0	0	136+	6	18	15
F. 並立	16. ならびに	0	0	0	0	0	68+	13	1	128
G. 補足	17. ただし	0	0	0	0	0	196+	16	26	69
	総用例数	25	0	0	1	1	1737+	125	150	1202
	異なり語数	3	0	0	1	1	15	11	12	14

(しみず のりこ ノートルダム清心女子大学助教授)